

サルに取り込まれる環境化学物質の地域内収支の研究
井口泰泉 (横浜市立大・理)

ビスフェノールAのサルにおける体内動態
川島誠一 (東京都臨床総研・分子制御)

サル脳発達過程の神経細胞死および生存におよぼす環境化学物質の影響
矢野一行 (埼玉医大・進学課程)

サルにおけるフタル酸エステルの代謝機構の研究

(平成12年度)

川嶋洋一・工藤なをみ (城西大・薬)

霊長類におけるフッ素化脂肪酸の排出経路と長期残留性の研究

村橋 毅 (日本自動車研・エンジン環境部)

サルの生活環境におけるエストロジェン様物質の研究
矢野一行 (埼玉医大・進学課程)

サルにおけるフタル酸エステルの体内動態の研究
川島誠一・楠畑かおり (東京都臨床総研・分子制御)
細胞を用いた環境物質に対するサルの耐性の研究
三輪倫子 (酪農学園大・獣医衛生化)

サルにおけるビスフェノールAの解毒代謝の研究
尾崎康彦・鈴森伸宏・青山和史 (名古屋大・医)
子宮内膜症におけるSLPIの関与とそれに対する環境ホルモンの影響

(平成13年度)

成松鎮雄 (岡山大・薬)

光学活性化学物質の立体選択的代謝反応における分子機構

矢野一行 (埼玉医大・進学課程)・川島誠一・楠畑かおり
(東京都臨床医・総研)

サルにおけるフタル酸エステルの体内攪乱の合同研究
川嶋洋一・工藤なをみ (城西大・薬)

霊長類におけるフッ素化脂肪酸の識別と蓄積性に関する研究

村橋 毅 (日本自動車研・エンジン環境部)

サルの生活周辺におけるエストロジェン様物質の季節変化の研究

森 千里 (千葉大・医)

内分泌攪乱化学物質の母子間移行に関するサルを用いた研究

小嶋伸夫 (名城大・薬)

生体内代謝を経て発現する環境化学物質の内分泌攪乱作用

(文責：浅岡一雄)

比較による霊長類の解剖学的研究

(実施年度：平成11～13年度)

(推進者：茂原信生・毛利俊雄)

本計画研究は、研究所所蔵の液浸標本がひろく有効に利用されるようにと意図し、あえて非限定的な標題をかかげた。したがって、研究会を行って全体的な検討を加えるような性質のものではない。採用された研究題目は多いとは言えず、本来の意図が十分に実現されたとはいえない。しかし、実施された研究は、それぞれに意義があるもので、十分な成果がえられたと考えている。

本計画研究でおこなわれた研究の題目と研究者は以下のとおりである。

(平成11年度)

山中淳之 (京大・理)

霊長類における大腿骨近位部の構造力学的解析
岡田成賛・諏訪文彦・竹村明道・太田義邦 (大阪大・歯)
霊長類舌乳頭の比較解剖的観察

(平成12年度)

山中淳之 (京大・理)

霊長類における大腿骨の内部構造と力学的環境の関係
樋口 桂 (東京医歯大・医)
霊長類上肢筋および末梢神経の走行に関する比較解剖学的検討

諏訪文彦・竹村明道・戸田伊紀・池 宏海 (大阪大・歯)

霊長類舌乳頭の微細形態の比較解剖

(平成13年度)

荒川高光・時田幸之輔 (神戸大・医)

霊長類足底部の筋・骨格系の観察
加賀谷美幸 (京大・理)

鎖骨・肩峰・烏口突起の形態比較
樋口 桂 (東京医歯大・医)

霊長類の上肢筋および末梢神経の走行に関する比較解剖学的検討

(文責：茂原信生)

ニホンザルの食物選択と採食競合に関する研究

(実施年度：平成11～12年度)

(推進者：森明雄・加納隆至・大澤秀行・松村秀一)

ニホンザルの食物選択には、個体の栄養学的要求、食物の利用可能度、個体間・群間の競合などが影響する。この問題について採食戦略と生息環境や社会構造との関